

# 女川町まちづくり ワーキンググループ 瓦版

号外

女川町まちづくりワーキンググループの内容をお知らせします

## 専門家による講演会が開催されました！



1月10日(木)に、まちづくりの専門家による講演会が開催されました。

講師は(有)アトリエ U 都市・地域空間計画室の「宇野健一」氏で、復興まちづくりのあり方や、駅周辺の景観デザインに関して、講演して頂きました。

年始めの忙しい時期にも関わらず多くの町民の方々が参加し、貴重なお話を傾けていました。

## 開催概要

### 講演テーマ：コーポラティブタウン女川をめざして

今回のプログラムは、宇野氏の講演会と JR 女川駅の構想案に関する町からの説明の2本立てでした。

講師の宇野氏は、ご本人の地元である東京都多摩市を中心に、“居住者の目線から取り組むまちづくり”に努めている方で、今後女川町においてどのようなまちづくりがなされるべきなのかアドバイスをいただくとともに、スケッチをもとに駅前プロムナードの整備イメージを紹介していただきました。

参加した町民のみなさんとの意見交換では、今後のワーキングにおいて参考になるような話題が複数提供され、非常に有意義な講演会となりました。

- 日 時：平成 25 年 1 月 10 日(木)  
18:45~20:45
- 場 所：町役場 会議室
- 参加者：23 名

#### ● 当日のプログラム ●

- 1 開会
- 2 講演会
  - ・これからの復興まちづくりのあり方について
  - ・専門家による駅前プロムナードのスケッチの考え方について
- 3 意見交換
- 4 JR 女川駅の構想案の説明
- 5 閉会

#### ●● 講演会で紹介された主なアイデア ●●

- ・現在の自然環境をうまくまちに取り込むことが重要ではないか。
- ・住民自らまちを PR し、人を呼び込むことが必要である。
- ・まちづくりには住民の力が不可欠である。
- ・以前女川で暮らしていた人が、戻ってきたくならないようなまちになるとよい。
- ・美しすぎる町にする必要はない。
- ・女川らしさを出すためには、海とどう共存していくか検討することが重要である。
- ・駅から海を見通せる場所は貴重である。



## ≪講演会資料より≫

### コーポラティブタウン女川をめざして



2013年1月10日  
(有)アトリエU都市地域空間計画室／宇野健一

### これまでのまちづくり

- ①ものづくり(ハード)中心
- ②物的豊かさをひたすら追求
- ③利便性・合理性の徹底的追求
- ④用途純化の徹底
- ⑤車中心の街づくり
- ⑥歴史文化の軽視
- ⑦行政主導
- ⑧維持管理運営という視点の軽視

### その結果

- ①日本全国金太郎飴化の進展  
→その街にしかない個性の喪失
- ②行政主導による与えられた街の進展  
→住民の街への愛着の希薄化
- ③自己中心的社会の進展  
→コミュニティの分断あるいは希薄化
- ④利便性の過度な追求  
→活動の屋内化

### これからのまちづくり

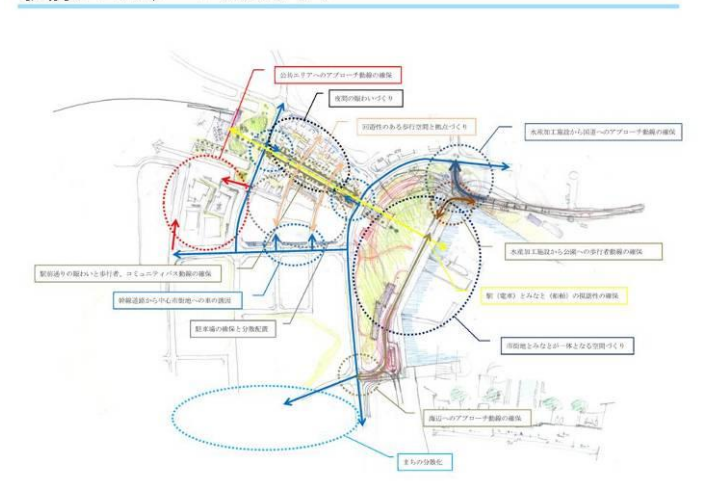
- ①女川ならではの魅力的な都市空間の形成  
ただ単に道路を整備し宅地を造成するだけでは、住民に愛され住民が誇りに思う、観光客の絶えない街にはならない。そのためには、女川にしかない歴史文化資源や自然資源をしっかりと街の中に組み込み、あるいは新たな名所を作るという視点が必要不可欠。
- ②人・企業誘致のための適切でタイムリーな広報  
女川復興のためには、まずは被災者の生活再建が最優先課題。並行して新たな企業誘致やUターン等移住の促進、創業支援も大切。そのためには、職員の方のみならず住民のみならず一人一人が「株式会社女川」の営業マンになったつもりで女川をPRしていく必要がある。
- ③上記を効果的に推進していくための体制の整備  
これまでのまちづくりは、もっぱら行政が主導して計画を練り、実行。これからのまちづくりには住民の力が不可欠。上記のハード・ソフトにわたる課題を克服していくためには「公民連携によるまちづくり」への意識転換と実践的取組が期待される。つまり

コーポラティブタウン女川づくりが重要

### 使いながらつくりあう奥畑谷戸公園プロジェクト



### 駅前プロムナードのスケッチ



## ≪講師の紹介≫

- 氏名：宇野 健一 氏
- 所属：(有)アトリエU都市・地域空間計画室 代表取締役
- 専門分野
  - ・都市・地域計画の立案および関連業務
  - ・ニュータウン・住宅地の企画・計画・設計および関連業務
  - ・街づくりの誘導・支援・参加型街づくりのコーディネート全般

